

ため、平成29年度に990万円、3か年合計2970万円の予算を計上しました。

この地目図を作成することにより、道路改修等により道路幅や線形、土地の形状が変わったことの確認や家屋の新築、増築、減失並びに土地の分筆・合筆等が把握でき、適正な固定資産税の賦課につながります。

グーグルマップ等の航空写真を活用できないかとの意見もありましたが、著作権の問題や、解像度が低いこと等により位置情報を持った航空写真を撮影することになりました。

特集4 白山平泉寺開山1300年PR事業について

白山平泉寺開山1300年を迎えることを記念し、7月18日の夏季例大祭にあわせて食と音楽をテーマとしたイベントや記念事業が15日から17日を中心に実施されます。実行委員会を立ち上げ、白山神社や地元地区などと連携して事業を行うために委託料220万円が予算計上されました。

さらに、中部縦貫自動車道永平寺大野道路全線開通イベント実行委員会からの補助金、観光推進エリア創出計画実行委員会からの補助金をあわせて一体的に実施していくことが示されました。

平泉寺白山神社宝物館特別公開、弦楽四重奏奉納演奏、拝殿でのプロジェクションマッピングなどのほか、毛屋区では泰澄大師御生母廟祭礼&記念イベントも計画されています。

これを機に長期的な白山平泉寺への誘客促進はもとより勝山市への観光客入込者数増加をはかるとともに、おもてなしの心をもって迎えることなどが議論されました。



特集5 都市機能の集約を目指した「立地適正化計画」について

勝山市は「急速な人口減少及び市街地の空洞化に対処すべく、都市機能の集約を目指した立地適正化計画の策定を行う」としています。

この「立地適正化計画」の「都市機能を集約すべき地域」は、社会資本整備総合交付金事業などの事業採択で優先されます。

議会では「都市機能を市街地にだけ集約すると周辺部の過疎化が加速する危険がある」「中部縦貫自動車道と勝山インター線の開通で北部中学校区域は定住地域となる可能性が高い。こうした新たな変化を考慮しないで、これまでの現状分析だけで将来計画を策定すると勝山市にとってチャンスともなる新たな定住の動きを阻害する危険がある」「もともとコンパクトな街である勝山市の特徴や新たな住環境の変化なども考慮して、都市機能を集約する地域を、できるだけ広く設定しておくべき」などの意見がありました。

理事者は「指摘されたことも留意して計画を策定したい」としています。

特集6 勝山ニューホテルの改修工事費について(平成28年度勝山市一般会計補正予算より)

勝山ニューホテルは、築後29年が経過し、昨年今後10年間の保全計画を作成したところ、空調設備や給排水設備、内装等を中心とした修繕費に、約3億円が必要であり、平成29年度にさらに調査すべき項目が多いため、保全経費が更に膨らむとされます。

しかし、今後の観光客増、特に外国の方の宿泊増を目指していくためには、勝山ニューホテルの存続が必要であり、国、県の助成制度を最大限活用し、保全していくことが求められます。

国の平成28年度補正で「地方創生拠点整備交付金」制度が予算化されました。この制度の採択を受けたことから、平成28年度勝山市一般会計補正予算で、勝山ニューホテルの改修費約1億円を予算化しました。改修内容はカーペット等の内装改修、空調設備改修等で、詳細は設計委託の中で決定します。

1億円のうち50%にあたる5,000万円は交付金、残り5,000万円は市債となりますが、市債5,000万円のうち、2分の1は後年度普通交付税の対象となります。



(勝山ニューホテル)